備前市事務事業評価シート

（平成21年度事業）

事業の概要					
事業開始年度		H17.3.22～		根拠法令・例規等	休廃止鉱山鉱害防止等工事費補助金交付要綱
総合計画	大項目	基本目標	01	安全で快適に暮らせるまちづくり	問合先 担当課（室）：環境課
	中項目	基本施策	02	自然と共生するまちづくり	職・氏名：保全係長・野坂俊哉
	小項目	施策	01	環境保全	電話：64-1822
事務事業名			02	休廃止鉱山鉱害防止事業	このシート作成に要した時間：4.0 時間

事業の目的	
対象（誰・何に対して）	金剛川、八塔寺川、和意谷川の水を利用する吉永地域及び三石地区の市民・事業者
目的（何のために）	鉱害防止を目的として農作物への被害防止や生活環境の保全を図るため。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	金剛川、八塔寺川、和意谷川の水質を保全し環境基準を達成する。

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性の評価を行って下さい

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
坑廃水処理事業	板屋・金谷・野谷の坑廃水処理場で中和処理を行い、河川の水質保全を図る。	◎

事業費等		単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績
決算額 事業費	直接事業費	千円	84,269	56,853	78,300
	必要人員 人件費		4.63人 29,270	3.76人 17,698	4.40人 23,041
	事業費計		113,539	74,551	101,341
財源	国県支出金	千円	83,899	63,185	83,434
	受益者負担		106	113	404
	繰入金				
	市債		0		
	その他（ 経済危機対策交付金 ）				4,400
	一般財源		29,534	11,253	13,103
受益者負担比率		%	0.00	0.00	0.4%

結果指標名	単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績
坑廃水処理水量	説明	坑廃水処理水量		
結果指標量	事業	163,163	160,189	183,765
対前年比	%		98.2%	114.7%
活動コスト	円	85,657,778	67,934,003	101,341,387
単位当たりコスト		525	424	551

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい

事業の成果

成果指標名	年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度目標値
環境基準超過回数	目標値（A）	0	0	0	0
	実績値（B）	0	0	0	到達目標値
	達成率（B/A）	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	0

成果指標設定の考え方・式や説明

3処理場において、坑廃水を安定した中和処理を行い、環境基準を超過することのないように事業を実施する。

事務事業の評価

妥当性の評価

- 市の関与の妥当性
  - ☑ 市が実施するよう法令で義務づけられている
  - ☐ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
  - ☐ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
  - ☐ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
  - ☐ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
  - ☑ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- 必要性
  - ☐ 事業開始当初の目的から変化してきている
  - ☐ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
  - ☑ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある
- 市民ニーズ
  - ☐ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価 <A～E>：**A**

効率性の評価

- コスト
  - ☐ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
  - ☐ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
  - ☐ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
  - ☑ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- 手段
  - ☑ 受益者負担率は適正である
  - ☐ 受益者負担率を見直す余地がある
  - ☐ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
  - ☐ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
  - ☑ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価 <A～E>：**C**

有効性の評価

- 目的達成度
  - ☐ 成果指標の設定は適切である
  - ☑ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
  - ☐ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
  - ☐ 成果指標達成率は80%未満となっている
  - ☐ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- 市民参画度
  - ☐ 法定事務 ・ 内部管理事務 であり成果は求めにくい
  - ☐ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
  - ☐ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価 <A～E>：**B**

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい

進行年度（H22年度）の改革改善内容

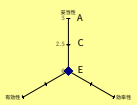
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：各処理場の設備は新しい施設でも建設から十数年経過し、老朽化が進んでおり、修繕・改修の必要性がある。また、ランニングコストの削減は実施しているが、施設改修の金額は大規模となる。

総合評価

国からの交付金を財源に充当したので、一般財源の持ち出しが少なくて事業が実施できた。今後も、国の補助等の動向を注視し、できるだけコスト削減を図っていくこととする。また、外部委託しているもので、現場職員で実施するように職員のスキルアップを図るため、研修等の参加を予定している。

評価区分 <A～E>：**B**



平成23年度の方向性 及び 取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標：工事等は入札・見積競争を実施してコスト削減を図った。常に安定した坑廃水の中和処理を実施できている。